

# 学校経営推進費 評価報告書（2年め）

## 1. 事業計画の概要

学校名	大阪府立港高等学校
取り組む課題	グローバル人材の育成
評価指標	① 実用英語能力検定準2級・2級の合格者数・合格率 ② 国際交流企画の回数、海外スタディーツアーの参加者数の伸び ③ 実力判定テストの英語のGTZ（学習到達ゾーン）の比率 ④ 学校教育自己診断での肯定的回答
計画名	～漕ぎ出せ 世界へ！ みなと国際人プロジェクト～

## 2. 事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	<p><b>1 確かな学力の育成</b></p> <p>(3) 国語力、英語力の向上とともにプレゼンテーション能力を育成する。</p> <p>ア 英語検定、漢字検定（進路部主導）を利用し、朝学習（教務部主導）を活用した学習習慣の確立をめざし、合格率の向上に取り組む。</p> <p>イ 生徒の主体的・協働的な学びを通して発表の機会を多くするなど、全ての授業で言語活動を重視した取組みを推進する。</p> <p>※ 検定の合格率を5Pずつ向上させ3年後には目標とする級の合格率15P増をめざす。</p> <p>※ 学校教育自己診断（生徒）「授業で自分の考えをまとめたり発表する機会がある」（H29:53%・H30:50%・R1:60%）を3年後には70%にする。</p> <p><b>2 自己を確立し未来を切り開く力の支援→豊かでたくましい人間性の育み→夢や目標を持った生徒の育成</b></p> <p>(4) 「元気な学校づくり」特別活動や生徒会活動で自己有用感を醸成し集団や学校への帰属意識を高める。</p> <p>イ 学校行事で「人を育てる」「学校が楽しい」と実感できるものにする。</p> <p>(6) 「違いを認め合い他者を理解できる豊かな心」を育む</p> <p>イ 「グローバル人材の育成」国際的な視野を育むとともに、問題発見・解決能力、論理的思考力、探究力、コミュニケーション能力の育成をはかる。</p> <p><b>3 学校の組織力向上と開かれた学校づくり → 信頼される魅力ある学校づくり</b></p> <p>(3) 広報活動と地域連携の充実（学校経営推進費の有効活用）</p> <p>イ 国際交流を通して地域連携を推進し、地域から愛される学校をめざす。創立110周年を見据え、生徒・保護者・教員・同窓会等の連携体制を推進していく。</p> <p>※ 学校教育自己診断（保護者）「港高校のHPをよく閲覧する」（H29:43%・H30:51%・R1:45%）を3年間で60%とする。</p>
事業目標	<p>令和2年度「府立学校への指示事項」の重点(2)の「グローバル人材の育成」にもあるように、グローバル化に対応した英語教育を推進し、国際共通語としての英語によるコミュニケーション力の育成を図るため、積極的な言語活動や海外研修や国際交流の受け入れを実施することは、まさに本校のめざす国際的な視野を育むとともに、問題発見・解決能力、論理的思考力、探究力、コミュニケーション能力の育成の方策となっている。</p> <p>本校はこうした学習や交流を実施することをめざしている。こうした生徒育成の理念のもと、指標としては実用英語能力検定の2級・準2級取得を目標として掲げる。（R1英検準2級以上8名→R2同20名→R3同30名→R4同40名と3年後合格者倍増をめざす）</p>
整備した 設備・物品	<p>○マルチランゲージ e-learning ルームの整備（机・椅子、タブレットなど）</p> <p>○玄関ホールにデジタルサイネージを設置。（歓迎や交流国の情報・スケジュール等が周知できるように増設）</p>

	○英語検定に向けて授業での取組みはもちろん、外部人材の活用により英語検定講座や英語進学講座を実施する。
<b>取組みの 主担・実施者</b>	主担者：既存の将来構想委員会、国際交流委員会、生徒部自治会G 実施者：教頭と首席および委員会・自治会メンバー
<b>本年度の 取組内容</b>	(○は継続項目、●は新規追加項目)  ○台湾スタディーツアーの報告会                      ○ランゲージ e-learning ルームの活用 ○12月に台湾スタディーツアー企画                      ○地域への積極的な情報発信 ○5月に台湾の高校生との交流行事(港高校内)大阪観光コンベンション協会との連携事業 ○実用英語能力検定の1・2年生全員受験(480名)実施 ○実用英語能力検定用外部講師による英語検定講座の実施 ○公益財団法人大阪観光コンベンション協会との連携による交流の受け入れ ●探究型の総合的な学習 = 国際理解教育の講演会の開講 ●留学生(グローバル化をめざす中小企業の人材確保事業-大阪商工会議所)との交流 ●創立110周年記念行事で国際交流活動の発表
<b>成果の検証方法 と評価指標</b>	① 英語検定2級合格者数 準2級合格者数 ② 国際交流企画回数、海外スタディーツアーの参加者人数 ③ 実力判定テストのGTZ(学習到達ゾーン)の比率 → 英語の学習到達度を引き上げる。 1年生… DゾーンからCゾーンへ15P、CゾーンからBゾーンへ10P引き上げる。(R1年度比) 2年生… DゾーンからCゾーンへ15P、CゾーンからBゾーンへ10P引き上げる。(R1年度比) 3年生… DゾーンからCゾーンへ15p、CゾーンからBゾーンへ10P引き上げる。(R1年度比) ④ 学校教育自己診断で「港高校へ行くのが楽しい」「港高校の生徒であることに誇りを持っている」の設問に対する肯定的な回答をR1年度比10P向上させる。R2年度比5P向上させる。
<b>自己評価</b>	① 2年連続で2学年全員が英検受験の実施ができた。校長マネジメント予算で外部講師による特別授業も2年連続で行えたことに意味があった。結果1、2年生で2級2名、準2級40名の1次合格者となり、2級2名、準2級19名の2次合格者になった。(2年め目標値、2級8名、準2級合格者22名) …………… (△) 3年生は準2級以上40名が取得できた。…………… (○) ② 今年度も新型コロナウイルス感染症の影響で、地域連携や交流活動については全く行えなかった。その中でもWEBでのオンライン国際交流会の紹介など実施に向かって努力・検討を続けた。…………… (ー) ③ 実力判定テストの英語のGTZ(学習到達ゾーン)の比率 1年生… DゾーンからCゾーンへ2.8P、CゾーンからBゾーンへ0.0P引き上がった。 (R1年度比)…………… D→C(△)、C→B(△) 2年生… DゾーンからCゾーンへ8.4P、CゾーンからBゾーンへ0.2P引き上がった。 (R1年度比)…………… D→C(△)、C→B(△) 3年生… DゾーンからCゾーンへ14.9P、CゾーンからBゾーンへ3.0P引き上がった。 (R1年度比)…………… D→C(○)、C→B(△) ④ 「港高校へ行くのが楽しい」は75%(R1・60%、R2・75%)、「港高校の生徒であることに誇りを持っている」は65%(R1・33%、R2・56%)とR1と比較すると15~32%の伸びが見られている。…………… (○)
<b>次年度に向けて</b>	○台湾スタディーツアーの報告会                      ○ランゲージ e-learning ルームの活用 ●12月に台湾スタディーツアー企画、8月にグアムなど新しいスタディーツアー企画 ○地域への積極的な情報発信

- |  |   |
|--|---|
|  | <ul style="list-style-type: none"><li>○5月に台湾の高校生との交流行事（港高校内）大阪観光コンベンション協会との連携事業。</li><li>●11月に韓国高校生との交流行事（港高校内）大阪観光コンベンション協会との連携事業。</li><li>○実用英語能力検定の2年1年全員受験（480名）実施</li><li>○実用英語能力検定用外部講師による英語検定講座の実施</li><li>○公益財団法人 大阪観光コンベンション協会との連携による交流の受け入れ</li><li>○探究型の総合的な学習 = 国際理解教育の講演会の開講</li><li>○留学生（グローバル化をめざす中小企業の人材確保事業－大阪商工会議所）との交流</li></ul> |
|--|---|